

# 帝京医学雑誌投稿規程

(2026年3月改定)

1. 本誌は医学・医療に関する綜説，原著，症例報告，統計・調査，資料，報告などを掲載する。
  2. 本誌は年4号とし，3月・6月・9月・12月の25日に発行する。原稿の投稿は随時受け付ける。
  3. 倫理委員会などの承認，利益相反などについては，本文中に記載すること。
    - 1) 人を対象とする生命科学・医学系研究は，ヘルシンキ宣言に基づく倫理的規範および「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を遵守して行うこと。

原則として研究機関の倫理委員会などの承認を得ているものとし，本文および論文表紙に承認番号・承認日を記載すること。介入研究のみならず後ろ向き研究を含む観察研究も倫理委員会などの承認を必要とする。
    - 2) 症例報告においては，倫理委員会の承認は必要ないが，個人を特定されることがないよう個人情報の匿名化に留意すること。氏名，生年月日，住所，個人識別符号などを消去することで匿名化されると考えられるが，症例や事例により十分な匿名化が困難な場合は，患者（あるいはその代諾者）から書面による同意を得，そのことを本文中に記載すること。
    - 3) 臨床研究法や再生医療等安全性確保法に該当する特定臨床研究や再生医療研究は，それぞれ認定臨床研究審査委員会や認定再生医療等委員会の承認を得ているものとし，本文および論文表紙に承認番号・承認日を記載すること。
    - 4) 動物を対象とする研究は，実験が実施された組織における実験動物に関わるガイドラインに則した研究であることが求められる。原則として動物実験に関する倫理委員会などの承認を得ているものとし，本文および論文表紙に承認番号・承認日を記載すること。
  - 5) 利益相反を有する場合は，その旨を本文中に記載すること。
  4. 投稿原稿は和文または英文とし，図，表を含めた原稿一式を提出する。投稿は，責任著者がオンライン投稿システム「ScholarOne Manuscripts™」で行う。
  5. 著者は原則として帝京大学医学部および帝京大学板橋キャンパスの在籍者に限る。
  6. 共著論文の場合，共著者の人数は常識的な範囲とし，かつ医学雑誌編集者国際委員会の定める論文著者の基準（下記）を満たしていることを条件とする。なお，原著論文・学位論文の場合は，投稿時に「著者役割一覧」を添付すること。
- 〈医学雑誌編集者国際委員会の定める論文著者の基準〉

論文著者として名前が掲載されるためには，以下の1)～4)のすべての項目に該当していなければならない。

  - 1) 研究の構想・立案，データの収集，あるいはデータの解析および解析結果の解釈のいずれかに実質的に貢献している。
  - 2) 論文の原稿を書くか，その論文の内容に関わる極めて重要な校正・改訂作業（リバイズ）にかかわっている。
  - 3) 掲載されている最終版の原稿の中身を理解し，承認している。
  - 4) 論文のあらゆる側面について，論文の正確性・真正性に疑義が寄せられたときに適切に説明することができる。
7. 原稿提出先  
オンライン投稿システム「ScholarOne Manuscripts™」にアップロードする。  
URL: <https://mc.manuscriptcentral.com/tkmj>

8. 投稿論文の規定頁数、表・図・写真の規定数、および原稿枚数を下表に示す。

	規定 頁数	表・図・写真 の規定数	和文本文 原稿字数
綜説, 原著	10 頁	8 枚	約 17000 字
症例	7 頁	6 枚	約 11000 字
統計・調査資料	4 頁	5 枚	約 7000 字
読者の広場	3 頁	3 枚	約 5000 字

9. 投稿された論文は査読者により審査される。査読者の氏名などは公表しない。採否は編集委員会が決定する。査読者の意見に基づいて、原稿の体裁や内容などについて著者に訂正を求められることがある。著者の訂正が6ヵ月以内に行われなときは新規投稿扱いとする。
10. 掲載は原稿の採択順とする。
11. 校正は著者の責任において行う。校正は脱字、誤植の訂正にとどめ、原文の変更・削除・挿入は認めない。
12. 本誌に掲載された論文、抄録などの著作権は帝京大学に帰属する。
13. 原稿は他誌に未掲載のものに限る。投稿中のもの、掲載予定のものも投稿してはならない。また、本誌掲載後（投稿中も含む）は他誌への投稿、無断転載を禁じる。

## 〔論文の体裁と内容について〕

### 1. 原稿の形式

- ①和文タイトル等（論文タイトル、著者、所属、和文抄録（600字程度）、キーワード）、  
 ②英文タイトル等（論文タイトル、著者、所属、英文抄録（300ワード程度）、キーワード）、  
 ③論文本文、引用文献、図の説明、④表 ⑤図 ⑥著者役割一覧（原著・学位のみ）・指導教授名および職位（学位のみ）とし、それぞれについてファイルを作成する。
- なお、原著論文の和文抄録は ①背景・目的 ②対象・方法 ③結果・考察 ④結論 に、英文抄録は①Background ②Materials and Methods ③Results and Discussion ④Conclusions などにおいて記載する。症例報告、綜説はこの限りではない。

### 2. 原稿の書き方

- 1) 原稿は可能な限り Microsoft Office のアプリケーションソフトで作成する。縦 A4 判用紙に 12pt、ダブルスペースで横書きし、必ず頁数および行番号を付す。
- 2) 現代かな遣いに従い、医学用語を除き常用漢字とする。旧字体、略字体を使用しない。
- 3) 度量衡は CGS 単位を用いる。
- 4) 文中にしばしば繰り返し使用される語は略語を用いても差し支えないが、初出のときは完全な用語を用い、以下に略語を使用することを明記する。

(例) 肝細胞癌 (hepatocellular carcinoma,  
以下 HCC と略記)

### 3. 図(写真)、表について

- 1) 表の上に表番号と表題をつける。表の番号は、“表 1”、“Table 1” のようにする。
- 2) 図の下に図番号と図の題を記す。図の番号は、“図 1”、“Figure 1” のようにする。図の説明は、ここには記さない。
- 3) 表・図の引用は該当文章の末尾に ( ) で示す。また、表・図の挿入箇所を本文の欄外に (図 1) のように記し明示する。
- 4) 大き過ぎる図は収載できないことがある。
- 5) 図の表題と説明は、順序にしたがって別紙に記載する。

- 6) 他から図表を転載する場合（改変しての転載含む）は、転載許諾を得ているもの、または転載許諾不要のものに限る。また、図表の説明に出典を明記する。

#### 4. 引用文献

- 1) 著者は、引用した文献の正確性について責任を負う。すべての引用は、原典に基づき正確に記載されなければならない。誤った引用や不適切な情報による問題が生じた場合、その責任は著者が負うものとする。
- 2) 引用文献は、引用順に記載する。本文中においては、番号を該当箇所の右肩に 1), 2) のようにつけ、引用を明らかにする。
- 3) 雑誌論文の記載は、著者名・表題・雑誌名・出版年；巻：初頁－終頁．とする。  
単行本の記載は、著者名・表題・編者名・書名・出版地：出版社；出版年． p. 初頁－終頁．とする。
- 4) 雑誌の省略名は「医学中央雑誌収載誌目録」 「List of Journals in Index Medicus」に準ずる。
- 5) 電子文献を引用する場合は、著者名・ウェブサイトの名前・URL・最終閲覧日を記載する。
- 6) 著者が 4 名以上の場合は、筆頭者からの 3 名を記載し、それ以上は「他」, 「et al」と略す。
- 7) 引用例

近藤大祐. ラット心筋の長さ張力関係と静止および活動電位におよぼす SCN, K および Ca イオンの影響. 帝京医誌 1992 ; 15 : 87-95.

佐藤友英, 近藤清廉. 向精神薬, 強心薬などによる医原性不整脈. 杉本恒明編集. 不整脈学. 東京: 南江堂; 1992. p. 517-21.

Lown B, Verrier RL. Neural activity and ventricular fibrillation. N Engl J Med 1976 ; 294 : 165-70.

Weinstein L, Swartz MN. Pathologic properties of invading microorganisms. In: Sodeman WA Jr, Sodeman WA, editors. Pathologic physiology : mechanisms of

disease. Philadelphia : Saunders ; 1974. p. 457-27

国立感染症研究所. 生物学的製剤基準. <https://www.niid.go.jp/niid/ja/mrbp.html>. 2017/12/22 閲覧

#### 5. 著作権譲渡の同意

著者は、投稿前に共著者から著作権譲渡の同意を取得する。著者および共著者は、オンライン投稿システムから発信される「著作権譲渡同意確認」で承諾の回答を行う。

#### 6. 記事の公開

帝京医学雑誌は電子媒体として公開する

- 1) 帝京医学雑誌 ホームページにおいて全頁を公開する。
- 2) 綜説, 原著, 症例報告, 統計・調査, 資料, 報告など編集委員会が必要と認めた記事は帝京大学研究・教育リポジトリで公開する。